

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4470102478		
法人名	社会福祉法人 碓山会		
事業所名	居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム		
所在地	大分県大分市大字津守字長田2547番地の6		
自己評価作成日	平成27年11月14日	評価結果市町村受理日	平成28年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年11月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然環境に恵まれ、広いリビングで生活し、栄養士による食事を提供し、週1回の医師の診察で健康管理をしている。年6回の外出支援や、年1回の家族会、月1回のおやつ作り、誕生日会や地域行事の参加をしている。リハビリで口腔体操、マッサージ器、ストレッチ体操をしている。みどりのカーテンや太陽光設備にて環境対策している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・常に利用者の立場に立ったサービスの提供を心がけるケアの実践に取り組んでいる。
- ・ドライブや日常的な外出で気分転換がはかれ、昔からの知人達とも交流が続いている。
- ・事業所内外の研修を積極的に受け利用者本位の支援がなされている。
- ・職員間で利用者の情報・状態を共有しケアに活かされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げて、毎日見て確認している。毎日リーダーが読んでいます。	常に利用者の立場に立つサービスの提供という理念を事業所内の目立つところに掲示し、朝礼の時毎日読んで職員全員で確認して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを受け入れ、月1回デイホールに行き交流している。地域の文化祭にも参加している。	滝尾中学より年2回の訪問があり、掃除や利用者との会話で交流している。デイホールでデイサービスの利用者や支援ハウスの入居者と交流している。誕生会には地域からボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞を年4回発行し、キャラバンメイトの登録をして仲間作りをしている。福祉避難所指定されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開き、意見交換や取り組みの報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議には利用者・家族・市担当者・地域包括支援センター・地域代表の参加がある。事故状況の報告や病院受診などについて話し合っている。出された意見は業務改善に役立たせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議やケアプラン提出時での意見交換や、事故報告の提出等している。	運営推進会議において市から感染症についてなど様々な情報を得ている。事故や困難事例などを市に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を開放し、研修等で理解を深めている。	身体拘束はしない方針を全職員に周知徹底して支援にあたっている。日中は玄関の施錠はしない。ベッドを降りた時反応するセンサーを1部屋に設置している。虐待防止の研修を受け実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、職員会議等で確認し共有している。		

事業者名：居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは、管理者一人に対応する為、新人職員ともども職員全体として、必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明はほぼ十分な説明を行ない理解や納得は得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情について職員間の共有がなされ改善に向けての会議をしている。家族会等で会議をする時間を設け、意見箱も設置している。	年1回開かれる家族会やふだんの面会時に意見・要望を聞いている。意見箱を設置している。出された意見を基に薬の管理体制が改善された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との話し合う機会がなく、反映できているとはいえない。	朝・夜の申し送り時に職員から管理者に意見・要望など出されているがうまく伝わらない事がある。	管理者は職員の意見を聞くよう心掛けてはいるが把握できていない事もある。出された意見要望などが、事業所運営に活かされることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件に添った給与水準は維持していますが、有給休暇の取得等の福利厚生面には、今後の改善が必要である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的な職員研修は未達成ですが、出来るだけ研修会の受講を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大分県連絡会を通じて、勉強会や互助訪問を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をしやすい雰囲気づくりを心掛け、スタッフ間で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をしやすい雰囲気づくりを心掛け、家族の気持ちを受け止められるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方の意見や状況などを見極めるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の変化を見極めながら、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ本人の希望に添えるようにし、家族の負担にならない程度に協力し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	順番にふるさと訪問等の外出支援をして、関係が途切れない様に努力している。	元の自宅の近くに出掛けたり、そこで会った人と話をすることがある。馴染みの人が頻繁に訪れてくれる。会いに行ったり来てもらったりして交流が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が、フロアで一緒に過ごす事が多い。職員が声かけし、孤立しない様に努力している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者に対して、情報提供はもちろん面会や、ご家族からの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで言葉を拾いながら、ご本人の思いや意向の把握に努めているが、十分とは言えない。	動作や表情から利用者の思いに気づいて、支援につなげている。体調の変化を言い表せない利用者に対しては関わりの中で意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初の言葉を大切に洩れの無いように把握に努め、最後まで自分らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことよりも出来る事に視点をおき、日々の変化を見過ごさない様に、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人との関わり方の中で、担当者を中心に全員でアセスメントや、モニタリングのカンファレンスを行なっている。	朝夕の申し送り時、担当職員を中心に全員で検討しモニタリングやケアプランに反映している。急な変化が起きた場合、その都度の変化を職員全員で共有しプランの見直しなどに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に心掛けている。職員会議で見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等対応し、サービスの充実に取り組んでいる。		

事業者名：居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを常に行っている。成年後見人制度等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望により、主治医を決めている。協力医による週1回の往診など、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	利用開始時本人・家族の希望を受け、かかりつけ医を決めており、希望により受診し、協力医療機関もある。かかりつけ医による週1回の往診を受けている。訪問看護や訪問歯科の利用がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の体調変化や、体の観察を行ない気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行ない情報を共有しながら、ケアの実践を行なっている。必要に応じ、どの職員も看護師と相談し支援に取り組めるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医による週1回の往診の際に、利用者、ご家族が安心していただけるよう情報交換や相談を行ない、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約時に、重度化に関する確認書等で説明し、理解を得るようにしている。またその都度利用者やご家族と話し合いをして、希望にそったケアができるように支援している。	終末期ケアは実施していないが、できる範囲で支援している。重度化した場合、本人・家族の希望を聞き、状態の変化がある都度家族と相談している。特養の申込みをしたり、入院を検討したり、常に家族と話し合って支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。応急手当等の訓練は、入社時の初任者研修で受けているが、定期的には行ってはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をしている。災害避難場所に指定されている。	法人全体の施設合同で消防署と一緒に年2回夜間想定防災訓練を行っている。津波の時の避難場所に指定されている。法人の施設に備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、常に尊敬の気持ちで接するように心掛けている。	本人に着たい服をチェックしてもらい決定するなど。利用者の意見や希望を尊重している。プライドを傷つけないよう時間を見てさりげない声掛けでトイレ誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からの希望にすみやかに対応し、最善をつくすよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全で健康的な生活が送れると共に、メリハリがつくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や化粧品で気分転換ができるよう支援し、鏡を見て整える支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話に今日の食事の献立や料理方法等を盛り込み、ご飯つぎやつぎ分け等していただいている。	ふだんの食事はデイサービスの方から運ばれて来る。月1回のおやつ作りがあり、利用者の希望を聞いている。おはぎやぜんざい、かき氷など一緒に作っている。後片付けも一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、職員が周知できるようにしている。嗜好品の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ見守り又は半介助にて確実にしている。定期的(週2回)に義歯の消毒を行なっている。		

事業者名:居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄意思を尊重し、トイレへの誘導を心掛けている。	入所時よりレベルが低下しないような支援に心がけている。一人一人のリズムに沿ってさりげない声掛けでトイレ誘導している。パッドの大中小を使い分け、リハビリパンツが不要になった利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を飲む等水分を多く摂るよう心掛け、体操や歩行等の運動を毎日行い、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日置きの入浴を実施し、入浴日以外にも希望者にシャワー浴を実施している。(夏場のみ)	二日に一回の入浴を実施、温泉でありゆっくり落ち着くことができる。シャワー浴も希望があればできる。入浴日時は希望によって変えられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室で静養していただけるように、布団の準備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、薬の目的や副作用を確認し、定期的な病院受診を行ない、体調確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや習字、散歩やぬり絵等一人ひとりが楽しめるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と出掛けたり、館外散歩を行ない、月1回の外出、買い物支援を心掛けている。	日常的に近くを散歩している。2ヶ月に1回全員でのドライブを実施し、月1回順番で個別に外出の支援をしている。地区の神社の行事があれば参加している。	



事業者名：居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を所持されている方がおられる。所持金額については、職員が把握している。利用者の希望、必要な物品があれば購入、又は本人と買い物へ出掛ける等支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方は少ないが、年賀状等で出来る限り断ち切らない支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏冬はエアコン等で温度調節し、空気清浄器や加湿器の利用をしている。西日対策で緑のカーテン作り等環境整備に努めている。毎月の壁面カレンダーを作成し飾っている。	緑のカーテンで西日をさえぎり、季節の花をホールに飾り利用者は和んでいる。行事の写真や利用者の作品等を飾っている。落ち着いた雰囲気の中でゆったりとソファーに座り過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	のれんをさげて、他者の視線を軽減するよう工夫したり、座席の配置の考慮やソファーを利用して、利用者同士話されたり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団、物品等はご自宅で使い慣れたものを使用していただいている。衣装ケースやタンスには、利用者がわかりやすいように分類表記している。	これまで使い慣れた物を部屋に置いている。ベッド柵はないがマットを敷いている。いろいろ飾っている人、すっきりしている部屋、それぞれ個性が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは、写真や絵や文字等でわかりやすいようにしている。居室内もご家族と相談しながら、利用者にあった家具やベッドの配置を行ない、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		